

景況実感調査(1月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 品種によりタイト感が残っているものの、先月ほどではないように感じられる。加工は引き続き好調。トラックが不足しており、納期調整に気を使う日が続く。
- ② 冷延、酸洗ともに少なからず引き合いが増えてきた。
- ③ 12月比、稼働日は19日と同数になっているが、売上、数量ともに微増。大手製造業は絶好調との報道も多いが、国内中小は職人不足、トラック不足もあってか物量に大きな変化は実感できていない。市況の下値確認は共有化されているが、メーカーからの仕切り増が販売価格に転嫁しきれず、利益率の改善が遅れている。足下の円高やポスコの対日輸出意欲もあり、輸入玉も入荷待ちの品種もある。短期的な調整局面であると思うが、為替もドル・円100円を切ると要注意の状況に入りかねない。期末と4月の消費増税を控え、しっかりと商売をして行きたい。

中板

- ① 市中在庫にタイト感。値上げ基調で仮需の動きが一部、年末年始にあったが一服感が出てきた。しかし、相変わらずメーカーの納期遅延等で歯抜けサイズも出ていることから、年度内は強基調が続く見込み。

厚板

- ① 基調は前月と変わらず高位横這いである。年度内は同レベルで推移する見込みである。年末年始以降の需要に対して、トレーラーの台数が不足している。とくに遠方向けがつかまりにくい状況となっている。建築分野は旺盛な需要に対して、建方の遅れが懸念されている。設計の人員不足、現場技能工の人員不足が原因となっている。

—舟受開金鋼

- ① 前月比、営業日数は1日少ないが、売上は微増、粗利は横這いであった。1月が盛り上がったのではなく、12月受注、1月デリバリーの売上が多かったのだろう。1月の受注は減少した。現状の荷動きであれば2月の売上は1月比減少に転じる。4～6月の閑散期を控えているが、弱気は禁物。

—H形鋼

- ① メーカーネット上げ幅に市況が追い付いていない。メーカーのじっくりとした対応が無ければ、市況が追い付くのは難しい。
- ② 荷動きに関しては、前月同様となっている。メーカーの販価に関しては、前月と同様だが、強気の姿勢は崩れていないために、採算の取れるラインまでの販価アップが急がれる。

異形棒鋼

- ① 1月は市況の上昇とともに在庫販売の数量が伸びた。土木中心に現物販売が好調だが、建築向け物件の引合いは少なく、先行きに不安を感じる。
- ② 浦安倉出し出荷は順調。メーカーネットから見て2月は7万5千円中盤にはもっていきたい。スクラップの下げ、物件等様子見だが、鉄筋はこの状態を維持しなければと思う。

平鋼

- ① 建築・土木中心に実需の回復を受け、荷動きは堅調に推移。しかし、昨年9月からメーカーが連続で値上げをした分の価格転嫁が遅れており、収益は逆に悪化しているため、早急に改善していきたい。また、運転手不足により配送面で苦勞している。

鋼管

- ① 1月の売上金額は、昨年比べて良かったが、粗利益率は大幅に下回った。
- ② 年初から出荷は好調であり、まだ品種や分野によって濃淡はあるが総じて回復基調と思われる。市況は今後上伸局面となるであろう。

構造用鋼

- ① 多品種に比べてややタイト感に欠け、市況価格も強気になりきれていない様子。電炉メーカーはコストアップから値上げを発表してきているが、まだ市況には影響が出てきていない。今後に期待。
- ② 需要動向については、自動車関連部品は引き続き堅調な動きとなっている。また、建設機械関連は、小型機種は堅調ながら、海外向けの鉱山開発の大型機種は低迷したまま推移している。工作機械等産業機械関連は輸出向けが回復傾向となっているが、先々に不透明感がある。店売りについては横這いの状況が続いている。市況は、メーカーがスクラップやエネルギーコストの上昇で、値上げを発表したが、荷動きが低調なこともあり価格転嫁には時間がかかるものと思われる。

その他

<曲げ加工>

- ① 正月休みや挨拶回り等が手伝って稼働日数も少なかったため、動きが鈍く加工売上は思うように伸びなかった。1、2月はよくても現段階では万遍に安定した稼働ではなく、まだら模様の状態である。アベノミクスに期待はしているものの、まだ小企業にあっては先が見えないのが現状か。

<スクラップ>

- ① 相変わらずメーカーも減産傾向が続いているため、スクラップの購入意欲も弱く、荷余り感がある。単価も12月下旬より下げが続いている状態。
- ② 産業の空洞化により、今後、日本は大変になる。

<金属表面処理加工>

- ① 1月は紐付き、物件物とも納入先の工程進捗が順調であり、扱い数量、売上高ともに大幅増となった。スポットは前月と同様に引合いも活発で高位安定。2月以降も大型プラント工事(国内)の加工が本格的に開始することから、高操業で推移の予定。仕入れ高の価格転嫁を進行中。